ヨーク大学日本語科三学年読解教材
AS/JP3000 6.0 Reading Comprehension
Japanese Studies Program, York University

第二課「一生に一度でいいから奥さんの言うことを信じなさい。」
Lesson 2: Once in your life, believe what your wife says.

ミシガン州立大学の大学院にいるある夏、家内と四人の子供たちを連れて、六週間のカナダ西部横断のキャンプ旅行に出かけた。途中で、家内の親戚や友達の家に泊まったり、キャンプ場でテントを張ってカナダの広大さを満喫した。古いバンを持っていたので、後ろを子供が寝られるようにして出かけた。アルバータ州に入るまでは非常に平坦な道路を毎日何百キロと走り、それこそ道端に生えている木やすれ違う車の数を数えるくらいが、気を紛らわせる術であった。エコー渓谷というところで、大地が切断されているのは印象的であった。カナディアン・ロッキーではいくつか温泉巡りをして楽しかった。

家内は、子供のころからキャンプ旅行には慣れていて、四人の子供の面倒を見ながら、てきぱきと、物事を片づけてくれるので助かった。ロッキーに行く前から、熊が出るから気をつけるように言っていた。私は、半信半疑であったが、一番大きなキャンプ場を選ぶことにし、ウィスラーヒル・キャンプ場を選んだ。確か、キャンプサイトが三百五、六十はあるロッキーでは最大のキャンプ場であったと記憶している。ゲートのところで、女性の係官に、家内が熊が出ると言っているが、本当かとたずねてみた。彼女曰く、「一生に一度でいいから、奥さんの言うことを信じなさい。」 それでも、私は、キャンプ場にいる大勢の人を見ながら、まさかーと思っていた。

指定されたサイトにテントを張り、そのころまでには、私もだいぶ手際がよくなっていたが、家内は夕食の支度、子供たちは薪取りなぞ、典型的なキャンプ風景が繰り広げられた。食事も終わり、家内は、食べ物の匂いのするものは、すべてきれいに洗い、バンの中にしまい、子供たちもバンの中に寝かせ、標高千五六百メートル以上の山中はしんしんと冷え込んできたが、キャンプファイアーの前に座り、コーヒーを飲みながら、カナダの雄大さを満喫していた。夜の十一時ごろ、家内はすでにテントで寝ており、私は透き通る夜空の大きな星などを見て感慨に耽っていた。

すると、突然、バンの陰でがさっという音がし、ふと目を向けると、中型の黒熊が、こちらを見ているではないか。「青天の霹靂」、いや、「闇夜の烏」、とでも言った方がいい状況である。夕方子供たちの作った、熊除けの缶からに小石を入れたのは、離れたテーブルの上にあり、とっさに、死んだふりをすることも考えたが、既に時遅し。それでも、キャンプファイアーが赤々と燃えているし、こちらはその前で椅子に座っていたので、ここまでは来ないだろうという少々の余裕はあった。ところが、である。熊はどんどんこちらに向かって来るではないか。私は、飲みかけのコーヒー・マグを握ったまま硬直した。まさにフリーズである。私も熊の方を見ないようにしていたが、熊の方も、目を合わせないで近寄ってくる。昔の剣豪同士の果たし合いというような殺気が頭をよぎる。はっと思った瞬間、半ズボンをはいている私の膝小僧を熊の毛がこ

すっていく。私とキャンプファイアーの間、約五十センチのところを熊は、堂々と通って行ったのである。その間目線は一度も合わせず、であったが、まさに熊の示威行為と思われた。

その時までは、それほど恐いという感じはなかったが、熊が次ぎに家内の寝ている、テントの回りをくんくんかぎ出した時には、焦った。しかし、さすが、キャンプなれしている家内であった。食べ物の匂いはまったくなかったので、熊はあきらめたように暗がりに消えて行った。その時すぐ家内を起こして熊の報告をしたかどうかは定かではないが、次の朝、近くで、「熊だ。熊だ。」という大騒ぎが聞こえた。ちなみに、キャンプ場で餌を漁る熊は、三回、百キロぐらい離れた所まで連れて行き、それでも戻ってきた場合は殺すのだそうである。元々自分のシマなのにと可哀相な気もした。

普通なら、これで話が終わるところであるが、そうではなかった。三日後にこのキャンプ場を離れ、バンクーバーに向かったのであるが、途中で、同じキャンプ場で、二人の男性が熊に襲われ、一人は片目を失い、もう一人は片腕を失うというニュースを聞いたのである。家内の話によると、子熊を連れている母熊は、人が子熊に餌をやったりしていると、狂暴になるそうである。私の出会った熊は、あうんの呼吸が分かっていたような気がする。

これが我が家の熊物語である。

１９９７年5月２９日 トロントにて
太田徳夫

［語彙］

横断(する)	おうだん(する)	go across
親戚	しんせき	relatives
張る	はる	pitch
満喫(する)	まんきつ(する)	enjoy fully
平坦(な)	へいたん(な)	flat
道端	みちばた	roadside
紛らわす・せる	まぎらわす・せる	divert
術	すべ	method
渓谷	けいこく	valley
切断(する)	せつだん(する)	cut off
印象的(な)	いんしょうてき(な)	impressive
温泉	おんせん	hot spring
巡り	めぐり	going around
慣れる	なれる	become accustomed to
面倒	めんどう	care, trouble
片づける	かたづける	put away
熊	くま	bear
半信半疑	はんしんはんぎ	half convinced
選ぶ	えらぶ	choose
確か(な)	たしか(な)	certain
記憶(する)	きおく	memory
係官	かかりかん	officer in charge
曰く	いわく	state
大勢(の)	おおぜい(の)	many
指定(する)	してい(する)	designate
手際	てぎわ	skill
支度(する)	したく(する)	prepare
薪	まき	fire wood
なぞ		old form of など
典型的(な)	てんけいてき(な)	typical
風景	ふうけい	scenery
繰り広げる	くりひろげる	unfold
匂い	におい	smell
標高	ひょうこう	above sea level

雄大(な)	ゆうだい(な)	magnificent
透き通る	すきとおる	transparent
夜空	よぞら	night sky
感慨	かんがい	deep emotion
耽る	ふける	be indulged in
突然	とつぜん	suddenly
陰	かげ	shadow
中型	ちゅうがた	medium size
青天の霹靂	せいてんのへきれき	a bolt from the blue
闇夜の烏	やみよのからす	a craw in a pitch-dark night
状況	じょうきょう	situation
除け	よけ	prevention
缶	かん	can
離れる	はなれる	be apart from
既に	すでに	already
遅い	おそい	late
燃える	もえる	burn
椅子	いす	chair
座る	すわる	sit down
余裕	よゆう	room
握る	にぎる	grip
硬直(する)	こうちょく(する)	stiffen
近寄る	ちかよる	come closer
昔	むかし	old times
剣豪	けんごう	great swordsman
同士	どうし	each other, between
果し合い	はたしあい	duel
殺気	さっき	thirst for blood
瞬間	しゅんかん	moment
膝小僧	ひざこぞう	kneecap
堂々(と)	どうどう(と)	with great dignity
目線	めせん	eye contact
示威行為	じいこうい	demonstration
恐い	こわい	fearful
焦る	あせる	get worried
匂い	におい	smell
暗がり	くらがり	darkness
消える	きえる	disappear
報告(する)	ほうこく(する)	report
定か(な)	さだか(な)	sure
大騒ぎ	おおさわぎ	commotion
餌	えさ	food

漁る	あさる	look for
戻る	もどる	return
シマ		territory
可哀想(な)	かわいそう(な)	pity
普通	ふつう(の)	usually
襲う	おそう	attack
片目	かため	one eye
片腕	かたうで	one arm
失う	うしなう	lose
狂暴(な)	きょうぼう(な)	violent
あうん[阿吽]		well timed
呼吸(する)	こきゅう(する)	breathe

© Norio Ota 2005